は、手紙をかく技能を身につけるため、手紙文の表現のみに焦点をあてず、封印して投かんするところから、相手の返事を受け取るまでを構造化し、具体的操作を通して意欲を喚起し、能力の定着をはかるよう試みている。

高等部全学年による「商品を大切に扱う子を育てる」農耕園芸の指導で国富は、農園生産物の市場でのセリ落しの状況の見学を通して、販売に対する興味・関心を高め、作物を大切に扱う態度とねばり強く作業と取り組む態度を結びつけた学習を実践し、効果を挙げている。

高等部の実践については、研究紀要P.84～P.117にくわしく述べている。

以上、各学部の具体的取り組みについて、その概要を述べた。しかし、効果的な学習指導は、指導法が確立されれば成立するというものではない。実際に授業を成立させているのは、一人ひとりの教師であり、子どもたちである。また、子どもの発達を支えているという意味では、保護者の存在も重要である。

表現化に視点をあてた学習指導の基本過程では、「意欲の発生」「いきいきと取り組む」「よろこびをもつ」という流れに従った各段階の過程を示したが、各段階の指導法は言わば囲碁でいう定石のようなものである。

また、段階別教育内容表から、子どもの発達をひとつひとつチェックして、学習を積み上げていくといっても、子どもたちはそれほど単純ではない。何の変容も見られない日が続いたり、反対に予想もしない変化が見えたりするだろう。また、子どもの変容が見えるのは、必ずしも学習の場とは限らないのである。

さらに、保護者との連携も、これらの学習との係わりの中では無視することもできない。

このように考えてくると、表現化に視点をあてた本校の立場を、効果的に促進するための学習指導では、指導法を支える周辺の問題として考えておかねばならないことが、いくつかあると思うのである。

4　学習指導を効果的に進めるための２・３の考案

(1)　教師の態度

まず教師が、「意欲的に生き生きと取り組む」ことが、学習成立の前提条件である。その中でも、子どもにとって、「思いやりのある教師」を心がけねばならない。例えば、表現化に視点をあてた学習では、教師が慎重かつ周到に、「子どもが何を表現しようとしているか。」「何を訴えようとしているか。」に、素早く気付いてやることが、表現化をめざす出発点である。また、発問・資料の提示に、子どもの側に立った工夫が常に心がけられねばならない。

例えば、中学部の美術の導入段階の実践で田口は、「窓から見えるものは何かな？」という発問では、名称の羅列しか引出せなく、描画につながる感動が引出せなかった。それに対して、

「すごい！いろんなものが見える。大きいの、小さいの、〜の形のもの、まだまだいっぱいある。さあ、みんなでさがしてみよう。」という発問からは、数多くの反応が見られ、描画への感動を引出すことができたと報告している。

この例は、学習場面での教師の生き生きとした働きかけが、子どもの反応を活発にし、意欲的な活動を引出す重要な手だてになっていることを示している。

(2) 指導内容の精選と指導の重点化

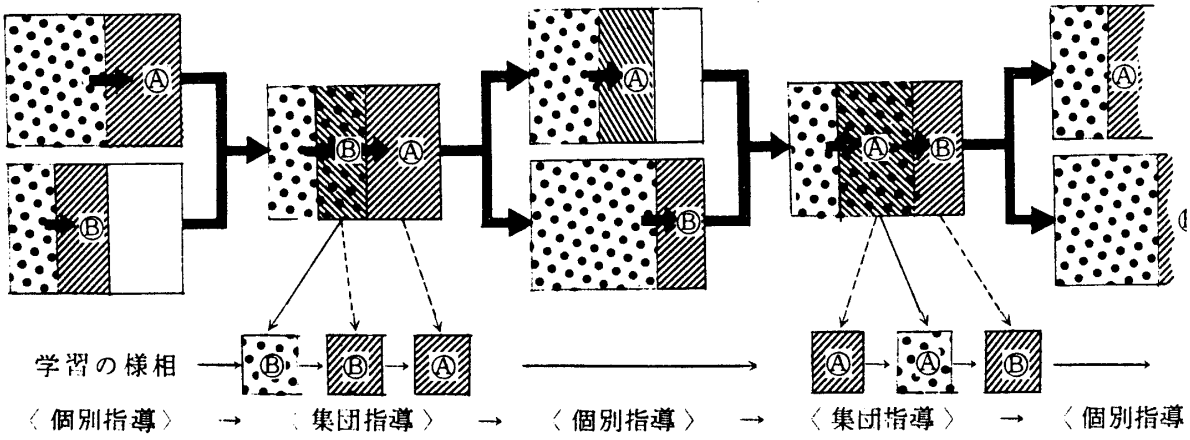
段階別教育内容表には、指導すべき学習内容を提示した。この学習内容は、子どもたちが、将来の社会自立に必要な獲得すべき生活経験の深化・拡大の過程（発達の順序性）を示したものである。従って、各学部・学級の具体的取り組みでは、さらに細分化された目標が設定され、計画され、指導が展開されなければならない。

しかし、段階別教育内容表は、発達の順序性を示すものでもあるわけで、例えば、身体的な成熟をまてば獲得可能なもの・精神的な成長をまてば獲得可能なものなど、ある発達成長の時期をまてば到達する見通しのあるものも含まれている。また、ある生活経験の獲得・拡大をねらった学習によって、その周辺の能力・態度が関連して定着の方向にむかうことも当然考えられる。

従って、子どもの発達の様相をよく見極め、「知らないより、知る方がよい。」「できないより、できる方がよい」内容を精選し、「知らなければ困る。」「できねば困る。」ことに指導の重点が焦点づけられていなければ、表現化に視点をあてた効果的な指導とはならないのである。

(3) 個別指導と集団指導

表現活動の内容は、学年が進むにしたがって、量・質共に個人差が大きくなり、個別指導が重視されてくる。獲得された個人の表現力は、人とのかかわりの中で生かされなければ、生活の中での定着をめざすことにならないので、集団を通して、お互いが刺激しあう場での指導が必要となる。下図の▪▪は、ＡＢがそれぞれ相手の学習経験を刺戟として、次の学習を実践する場面を構造化して示したものである。また、図のような個別指導と集団指導のくり返しによる指導が、表現活動の効果的な定着に役立つのである。



(4) 家庭との連携

子どもの生活の半分以上に家庭があり、表現化をめざす子どもたちにとって、家庭における家族の果す役割は大きい。例えば身辺自立に関することがらの習慣化などは、学校の指導と家庭でのくり返しの取り組みがあって、はじめて定着にむかうのであろう。学校と家庭は単なる協力関係ではなく、不離一体の指導の場であり、生活の場なのである。

小学部では、生活ノートにより指導事項に対する意志の疎通を欠かさぬよう相互に連絡し合い指導を強化するよう心がけている。(右表)

中学部では、宿題を義務づけている。この宿題は、従来からの予習・復習的なものや学校でできないものを家庭に持ち帰るというものではない。

学校での取り組みを家庭に理解してもらって、学校と家庭とが協力して、学習効果を挙げようということである。さらに、生活の中で、「生きて働く力」として定着する手だてとして、家庭の中での取り組みを工夫してもらい、生徒・教師・保護者が一体となって、社会自立をめざそうとする試みである。

9月20日土曜日 (あめ)		
1	生活	9月のうた他
2		運動会のれんしゅう
3		〃
4		〃
5		
じれゆんらびく	運動会のお知らせが入っておりますので、十分目を通しておいてください。明日はどちらにしても登校です。	

がっこうでのようす	
あいさつ	よくできました
きがえ	ズボンはけました
しょくじ	パン残しました
はみがき・てあらい	
かたづけ・そうじ	少しがんばりました
なかよし	

いえでのようす	
きがえ	パンツをはく
しょくじ	できません
はみがき・てあらい	できた
なかよし	意識しています
学習でのあそび 学習など・・・	

家庭→学校　運動会は大変御迷惑をかけました。いつになったら友達と行動してくれるやら、あせらず・・・待っただけかも知れません。来年の運動会に期待してみたいと思います。

この2・3日風邪気味で十分ねなかったようです。今日は7時半頃ねました。

衣服は少しでもぬれたら、家ではぬいでしまいます。学校でもやはりぬいでしまいますか。又、おしっこは自分でいこうとしますか。　(印)

学校→家庭　今日も朝のあいさつとてもスムーズにできました。着がえは、そばについていて、1つずつ指示してもらえばがんばれるようになりつつあります。今日はよく鼻水が出ていますが、少しかぜ気味なのではないでしょうか?

これからだんだん気温も下がっていきますし、十分お気をつけて下さい。

高等部では、毎日の実践を「家庭通信」にプリントして配布するとともに、生徒の生活日誌を通して、学習を家庭に伝え、協力体制を作っている。

以上、表現化に視点をあてた指導法の工夫に、2・3の考察を加えて述べたが、前述の通りこの構想は、基本路線を示したに過ぎない。要は、本校の教師集団が一丸となって、これをどう運用するかにかかっている。

次項に報告する実践事例は、昨年度の反省に立って、表現化を柱にし　各学部の特徴的取り組みを、宿泊学習・大山林間学校・農耕園芸を通して実践報告するものである。